

ご安全に！基幹労連の工藤です！（9）

「ものづくり産業の誇り」

ご安全に！基幹労連の工藤です！以下の文章はある新聞社から取材を受けた時のものです。先方にもHPでの掲載の許可を得ていますのでUPします。

当たり前の話であるが組織のもつ、もっとも大きな力は「夢を実現する力」だと思う。一人では不可能でも多くの仲間が集まれば実現する可能性がある。恥ずかしい話だが私は「宇宙戦艦ヤマト」を作ろうと思い、ものづくり産業を選び今の会社に入社した。生きているうちは不可能かもしれない。しかし、我々ものづくり産業は総力で未来に必ずや似たようなものを作るはずである。組織の中では思いを残すことによって後輩に受け継がれていく。多くの社員・組合員は目の前の問題に没頭しつつも、将来の製品を夢見ているはずである。

細部に至れば、ものづくり産業には未だ3K（危険・汚い・きつい）と言われる職場も多い。当然、職場環境の改善と安全衛生に対する取り組みの手を緩めてはならないが、我々のものづくり産業には夢があり、製品には誇りが詰まっている。我々の仲間は3Kであることを十分踏まえそれ以上の魅力を感じて製品に夢を描き、誇りをもって働いていると信じている。私はこの産業が大好きでたまらない。

どのような組織でも、例えば家庭・草野球チーム・会社・労働組合・宗教団体さらに国家にしてもその目的がありその実現のための教育がある。子供の属する高校の野球チームでも甲子園出場という目標を掲げそのための教育・トレーニングを行っている。基幹労連も同じである。組織には夢を目標にし、現実に向け取り組む力がある。今でなくても「いつの日か」夢をあきらめず運動を続ければ・・・。

その労働者の夢を壊そうとする労働法制改悪論議が行われている。ものづくり産業労働組合から見ると「あまり我々の製品や仕事をなめてもらっては困る」という事に尽きる。3年ぐらいで技術・技能が身に付くと思っているのだろうか？チームの連携でものを作り上げていく職場で、頻繁に仲間が変わる事をどう考えているのだろうか？経験年数の短い方の災害が多い中で安全対策をどう考えているのだろうか？極論すると「3年で夢をあきらめよ」というのか？未来の子供たちの為にも何としても踏ん張りたい。

以上

2015年3月27日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 工藤 智司